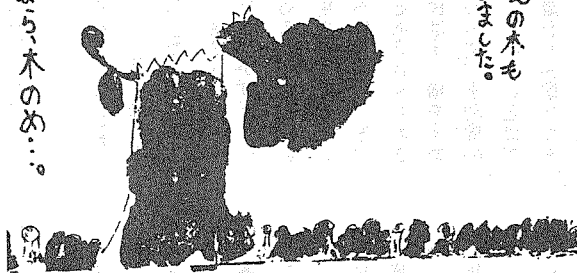


水トラスト ニュース

● 創刊号
1998. Sep.



でもほら、木のめ……。



すこみしい、ほんの木も
おれてしまいました。

CONTENTS

第2回水トラスト総会の報告2
「水源の森・みたけ」構想の提案5
木曽川マップ6
阿寺溪谷訪問記8
美しい停滞 柳川喜郎10
記事:石田犬山市長と懇談12
書評:奪われし未来13

みたけ・500万人の木曽川水トラスト

第2回水トラスト

総会の報告

7・25 名古屋働く人の家

七月二十五日、名古屋市熱田区伝馬町の「働く人の家」で、「みたけ・五〇〇万人の木曾川水トラスト（略称水トラスト）」の第二回総会が開かれました。

岐阜県可児郡御嵩町に起きた巨大産廃処分場問題をきっかけに、木曾川の水を流域住民自身の手で守ろうと、一年余にわたって御嵩町の水源保全のための基金への出資を訴えてきたトラスト運動をいったん集約し、今後の方向を定めていこうというのが今回の総会の大きな課題でした。

総会では、これまでに集まった基金を御嵩町の山林の二画の購入にあて、そこを「水源の森・みたけ」として引き続き産廃処分場計画にストップをかけるとともに、上下流の住民の交流も行いながら水源を守っていく場をつく

ろうという方向が確認され、そのための具体的方法や今後の活動のあり方などが討議されました。

一年余で二八八万円が集まる

名古屋、犬山、可児、八百津など流域住民と、京都からの参加もあって、出席者は二〇数名。御嵩からは岡本隆子さんが出席しました。

はじめに水トラスト代表の由井滋さんがあいさつを行ったあと、御嵩の柳川町長からのメッセージが紹介されました。

（みたけからのメッセージ）

「皆さんの運動は、たいへん心強く思っています。二一世紀はまちがいになく「環境の世紀」になるでしょう。



はじめに

御嵩町の住民投票から一年が過ぎました。御嵩町に起こ

った巨大産廃処分場問題は私たち下流域住民にとっても数々の課題をなげかけました。ゴミや水の問題、民主主義の問題など幅広いあたりでの問題提起の場であったと思います。そして何より私たちは一本の川をおして上下流の関わり方を考えさせられました。上流の御嵩町の住民はすぐ横を木曾川が流れているにもかかわらず、水利権の関係で一滴たりともその水を使うことはできません。おかげで遠く離れた飛騨川から水を引き、下流の自治体の三倍も高い水道料金を払わなければならないといった不平等が存在します。また下流域の都市部で発生したゴミの多くは上流域へと移動します。このような実態をみると下流域に生活する私たちは、ただ水を守ってくださいというだけでことは終わらないのです。そこでライフラインである木曾川を将来にわたって守り続けていくと同時に上流と下流の新たな関係をつくらうと「みたけ・五〇〇万人の木曾川水トラスト運動」をはじめました。木曾川は総延長二二七km、途中飛騨川と合流し濃尾平野を下り伊勢湾へと注ぎます。木曾、飛騨の急峻な山々と水源域の懐の深さから大都市近郊を流れる河川としては比較的水質が良いとされています。さて、木

曾川を見渡してみると上流域では林業の不振などにより過疎化が進み、山々は荒廃の一途をたどっています。

林道を一步奥に入ってみると、そこは植林されていないはげ山や不自然な伐採、人手のはいらない荒れた林がいたるところにみられます。そこにつけこむかのようにゴルフ場やスキー場、ゴミ処分場が連なるようにつくられてきました。山は緑のダムといわれるように利水や治水の役割をはたし、二酸化炭素の吸収や野性生物のすみかとなり環境保全のうえからも大切な場所です。

しかしその機能は失われつつあると同時に山間地の人々の生活も脅かされています。

次に下流域を見てみましょう。ここでは五〇〇万人の市民が水道水として利用し、木津用水や宮田用水といった農業用水が濃尾平野の田畑を潤しています。また休日ともなれば河川敷にはおおくの人々が繰りだしアウトドアを楽しむ憩いの場でもあります。まさに木曾川は私たち下流域の住民の生活とは切り離すことができない大切な川なのです。しかし残念ながら木曾川流域に暮らす多くの人々がこのことに気づいていないのが実態であり、一刻も早く上流、下流の人々がお互いの立場を理解し、未来永劫この川を守っていくしくみをつくることが必要でです。下流域で水を守ろうとすることは山を守ることもあり、山を守ることは川を守り豊かな海をつくることにつながります。このような視点で木曾川流域全体を見渡してみる事が求められています。

最近の科学的知見による環境ホルモンは、種の保存にかかわる問題だけに、恐ろしいことです。濃尾平野のライフライン木曽川は、なんとしても守らなくてはならないと思っています。

皆さんの運動が、木曽川下流の自治体にまで及べば、必ず大きなうねりになり、実を結ぶこととなるでしょう。ぜひ、一歩、二歩、三歩の前進を願っています。 御嵩町長 柳川喜郎

続いて事務局から水トラスト設立以降の経過が報告され、全体で確認されました。これまでに集まった出資金が二三八万八五七二円、リーフレットと払込書の印刷に一二万四九五〇円使、残高が二二六万三六二二円であるとの会計報告もなされました。

水源の森をつくらう

さらに以下の活動方針案を説明、これをめぐって討議が交わされました。

水トラスト活動方針(案)

I 活動方針

水トラストの目的は「すべての生きものの生命の水を守るため、木曽川流域圏自治体・住民の新たな協働体制を築くことを念頭に御嵩町の産廃処分場建設を止めるなど木曽川流域の水源保全を目的とする」です。この目的を達成するために、木曽川をおして

「巨大産廃処分場計画から木曽川・五〇〇万人の水を守る会」と「みたけ・五〇〇万人の木曽川水トラスト」の設立経緯及び現在

1991年

8月 御嵩町小和沢地区の産廃処分場建設計画を寿和工業が御嵩町に説明

1995年

4月 柳川さんが御嵩町長に就任

5月 御嵩の産廃建設予定を知る

9月 御嵩の産廃建設計画が新聞報道される

12・3 「巨大産廃処分場計画から木曽川・五〇〇万人の水を守る会」発足集会(名古屋働く人の家)

現地見学、各地集会、計画の中止、許可手続きの凍結を求める要望書を名古屋市長・愛知県知事・岐阜県知事に提出。

岐阜県知事宛「要請署名」の活動を開始
12・7 名古屋市長・愛知県・岐阜県へ「要望書」提出、のち御嵩町役場へ

1996年

1・19 木曽川下流域各市町村宛、処分場問題に関するアンケート発送

2・29 アンケート結果報告(記者会見にて)

3・3 名古屋栄にて街頭署名行動

3・15 岐阜県知事宛の「要請署名」第一次集約として、約一六、一〇〇名分を提出。同日、愛知県・名古屋市長へも要請

4・21 名古屋栄にて、御嵩のお母さん

と共に署名行動

5・24 岐阜県庁におもむき、署名第2次集約を提出

7・14 集会「木曽川の水を守る会」下流域に住む者のなすべきことは……。柳川町長の報告、水源保全条例と水源税について発案がある(教育会館)

7・30 7・14集会宣言と要望書を岐阜県・愛知県・名古屋市長に提出

8・7 中央省庁(厚生省・建設省・環境庁)へ要望並びに質問書を提出。みたけ産廃を考える会と

10・20 10・20付にて、御嵩産廃処分場問題の解決と水源基金の創設、及び、木曽川流域圏サミットの組織と開催を求める要請文を下流域自治体へ送付(11・20付回答)

10・30 柳川町長襲撃事件

10・31 柳川町長襲撃事件に対する抗議声明(多治見病院前)

11・5 柳川町長襲撃事件について緊急行動要請。アンケートを木曽川下流域全自治体首長へ発送

11・17 「御嵩町長襲撃事件に抗議する緊急下流域住民集会」(愛知県芸術文化センター・アートスペースAにて)「私たちは暴力を許さない。木曽川の水を守ろう」と宣言する

11・21 11・17集会宣言と要請文を名古屋市長・市議会・愛知県・県議会に発送

11・21 11・17集会宣言と要請文を名古屋市長・市議会・愛知県・県議会に発送

11・21 11・17集会宣言と要請文を名古屋市長・市議会・愛知県・県議会に発送

11・21 11・17集会宣言と要請文を名古屋市長・市議会・愛知県・県議会に発送

11・21 11・17集会宣言と要請文を名古屋市長・市議会・愛知県・県議会に発送

11・21 11・17集会宣言と要請文を名古屋市長・市議会・愛知県・県議会に発送

11・21 11・17集会宣言と要請文を名古屋市長・市議会・愛知県・県議会に発送

11・21 11・17集会宣言と要請文を名古屋市長・市議会・愛知県・県議会に発送

の質問書を提出。県と懇談

1・28 10・20付要請文及び11・5付アンケートの集計を発送

2・12 御嵩町役場にて柳川町長と懇談(水源基金について)

3・15 民間「水源基金」設立のための第一回拡大会議。当会の呼びかけによる

3・31 御嵩町議会議員「清流会」と当会メンバーとの懇談

4・4 御嵩産廃処分場計画について、名古屋市長選挙候補者三名に公開質問状を送付

4・4 「基金」設立のための第二回拡大会議

4・26 「みたけ・五〇〇万人の木曽川水トラスト」設立集会。社会文化会館。田中御嵩町議会議長、大脇参議、環境フォーラム信州・清水久美子さんの報告

5・6 「住民投票」の日が6月22日に決定する

6月 「五〇〇万人の水を守る会」メンバー有志による御嵩町戸別訪問で、反対投票を訴える

6・22 「住民投票」投票率87・50%。反対票は全有権者数の69・70%で、産廃はNo!

6・30 「水トラスト」の報道をマスコミ各社に要請、記者会見。「億円の募金を集めて、水道未普及地区などの存在に悩む御嵩町の環境保全のために使ってもらおう指定寄付金として寄付する」予定と、「流域圏サミット・公的水源基金の実現」などの主旨を説明。トラストのリーフレット配布を始める

9・18 27 トラストをすすめるメンバー

上下流の住民がお互いの立場や状況を理解し、水源保全にむけて議論し行動していくことが必要です。その具体的な事柄として御嵩町内に水源の森をつくることとします。

II 行動計画

御嵩町の山々も私たちにとつては大切な水源地です。標高五〇〇m前後の山々からは水が湧き、流れ下る様をみることが出来ます。ここに水源の森をつくり、山や水を考える場とし、同時に上下流の住民の交流の場とします。

①御嵩町上ノ郷地区の山林一五〇〇坪を購入し「水源の森・みたけ」をつくります。

②「水源の森・みたけ」と隣接する山林を含め散策コースを設置し、常時自由に散策できる場所とし、またハイキング交流会など開催します。

③動植物の観察や森林の公益的機能を考えるための森林ウォッチングを行います。

④眺望を楽しむと同時に産廃処分場予定地を観察するためウォッチングタワーをつくります。

⑤炭焼などをおして山間地の生活体験や暮らしの知恵を学びます。

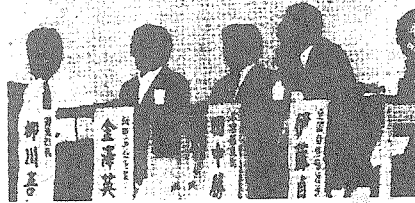
⑥ポランティアによる下草刈りや間伐など林業体験をおして上下流の交流をはかります。

⑦用地購入資金及び維持管理費のた

(前ページより)

ーによるドイツの産業廃棄物処分の現状視察。現地環境NGOと交流

11・8 木曾川流域圏シンポジウム「手をつなごう上流域と下流域」を主催。米・名古屋市教育館。村田正人弁護士による「水道水源保護条例と廃棄物問題の法的戦略について」講演。御嵩町長柳川喜郎さん「住民投票の意味と産廃は木曾川流域圏の問題」、長野県木曾福島町議田中勝己さん(国有林の再生を求める全国市町村議会連絡協議会)、金沢英明さん(阿寺



め引き続き水トラスト資金キャンペーンを行います。

III 組織活動

行動計画を実行するために次のように組織活動をすすめます。

①会員制を導入し会員の拡大につとめます。会員からは年間二〇〇〇

渓谷を愛する会)、伊藤貞彦さん(全国自然保護連合理事)、渡辺泰さん(名水劣)によるシンポジウム。「流域圏自治体」のサミットの開催と公的水源基金の実現を望む。

12・23 「水トラストコンサート」を主催。城北橋教会にて、新谷のり子さん、南修治さんの歌

1998年

1・18 御嵩柳川町長と「五〇〇万人の水を守る会」のメンバー懇談。トラスト基金の使途について、町長談「下流域に無心はしたくない。産廃の不法投棄の監視所とかエコ・ステーションとかはどうか。町有林は売れませんので、民有地を買ってはどうか。木曾川流域圏サミットは、ぜひ実現したい」

1・31 御嵩町議清流会代表と懇談。可児、御嵩住民有志も参加

2・7 御嵩町議会の有志と懇談。可児、御嵩住民も参加。「水トラスト」の趣旨に基づいた御嵩町内の山林の物色について理解を要請

2・14 可児、御嵩住民有志の案内で小

円の会費を徴収します。

②会員への広報活動として機関紙を年二回発行します。

③年一回の総会と年数回の事務局会議を開催します。

討論になったのは、まずこれまで

和沢周辺の山林を視察。最後は雪の中、八百津のめいそうの森から小和沢とその東部に位置する大久後を見る

2・28 大久後の山林の地権者と懇談。御嵩住民有志と共に理解と協力を要請

3・7 地権者の案内で御嵩住民有志と共に上ノ郷大久後地区の山林を歩いて物色。小和沢の産廃計画予定地監視場所の適地もあつたが、その後、話は進まなかつた

4・14 犬山市石田市長と懇談。犬山市民をはじめ下流域住民有志も「五〇〇万人の水を守る会」の呼びかけで参加。木曾川流域圏サミットの実現や上流と下流について意見交換

4・29 大久後の山林を御嵩住民有志と共に歩く。小和沢を臨むことは出来ないが、木曾川水源保全の目的に沿った場所であつた

5・9〜10 水源の森スタディツアー。

阿寺、木曾福島を訪ねて現地住民と交流

6・6 再々度、御嵩町上之郷大久後地区山林視察

7・4 柳川御嵩町長を御嵩に訪ね、「水トラスト」の目的に沿った使途など懇談

7・11 御嵩にて地権者と会う

のトラスト運動をいったん集約し、新たに会員をつのつていくうえで、出資者と会員をどう区別するかといった組織体制の問題です。

またウォッチングタワーというのはどういったイメージかということをはじめ、水源の森の運営方法、使い方

などが議題となりました。

会員と出資者の区別については、

「水源の森・みたけ」構想の提案

97年6月22日、岐阜県御嵩町の住民は巨大産廃処分場計画を拒否し凍結させました。あの日の夜は感激でした。「よくやった。御嵩住民はよくやった」と感慨にひたつたものです。と同時に、下流域住民として共に反対の行動を手をたずさえて進んできたわけですが、この「凍結」で運動は終わるものではないであろうという思いをも強くもちました。

その年の4月にたちあげたのが「みたけ・500万人の木曾川水トラス」です。木曾川の水を守るための水源地の確保と保存を訴え、1万人の人に1万円ずつカンパしていただいて1億円集めるという目標を立てました。一見分かり易い内容と思われましたが、その中身、運動の力量についての分析が不足していた為か、それには遠く及びませんでした。

しかし、300人以上の方のカンパは私たち運動を提案したものとしてはズッシリと重さを感じます。まさに北海道から九州迄の方々の浄財であるからです。ありがとうございました。

98年に入ってから、私たちはトラストの候補地選びを始めました。水源を守ることを念頭に置いて考えましたが、候補地としてはやはり御嵩の山林が良いだろうということで、地権者の方と相談を重ねてきました。もちろん森の中に入って樹木と会い、散策をして何度も繰り返し返してきたものです。そうこうするうちに地権者の方の理解も得られ、御嵩の久後地区の山林を取得する方向となりました。

しかしながら現在あるカンパの額では何倍も不足しています。私共の力量不足を痛感するところですが、御嵩の久後地区のトラストを成功させるために新たな提案をさせていただきたいと思います。「水源の森・みたけ」と銘うった提案です。

トラストした山林を「水源の森・みたけ」として広く会員を募り会員の方々の会費と労力によって維持していきたいと考えています。その他に出資者として会員でなくカンパだけで参加する方法も考えています。是非ご希望の方法でご協力下さい。

会員の方の労力と書きましたが、具体的に言いますと山林は荒れています。余り手が入っていないわけです。その為に下草刈り、間伐などが必要です。その他に山小屋作り、道作りなど多くの方が自由に散策、ハイキングができるようにすることを考えると、作業が必要となり労力があるわけです。勿論これは会員だけでなく広くボランティアを募ってやっていくつもりです。ご協力ください。

この計画については御嵩町の柳川さんから御嵩住民からも温かいエールが送られています。大変喜んでいきます。「水源の森・みたけ」構想に是非ご参加とご支援をお願いします。

感謝

「みたけ・木曾川500万人の木曾川水トラス」
提案団体「巨大産廃処分場計画から木曾川・500万人の水を守る会」 事務局 宮下 益一

会員はあくまでも出資者とは別に新たに募ること、水トラスの活動を具体的に支えるのが会員であるということにして、これまでの出資者の中でも会員になってくれる人については改めて会費を徴収することが確認されました。

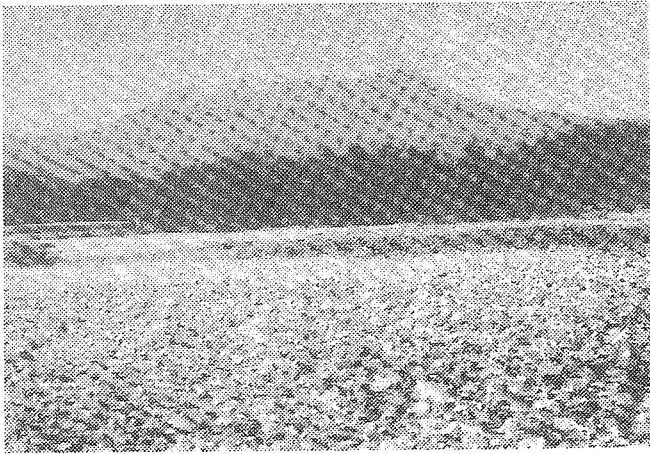
さらに規約をめぐって、会計や監査員の選出、総会の成立の条件などもっと詳しく規定すべきではないかという意見も出されましたが、運動の実状からいってあまり細かい規定を設けると現実にはそぐわないことも生じてしまうのではないかといい、できるかぎり情報の伝達に努めることなどで活動が恣意的なものになるのを避けようということになりました。会員だけでなく出資者の方へもニュースを配布し活動状況を報告していきます。

水源の森の利用については、広い意味で水トラスの目的に賛同する人は誰でも自由に使えるオープンな場にしようということ意見がまとまりました。何を作っていくのか、維持運営の体制などについてはいくつかの案は出されていますが、具体的な点については今後実際に現地に足を運ぶなかで考えようということです。御嵩の岡本さんからは地元でも協力する方法を考えていきたいという話がありました。

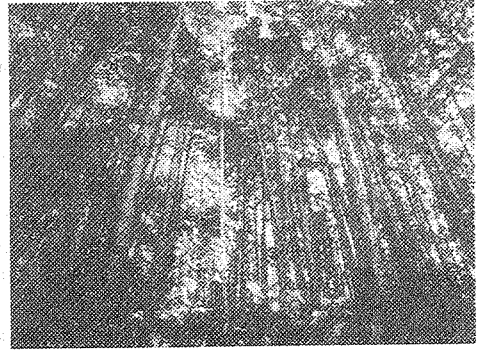
さらに水源保護条例の制定、木曾川サミットの実現に向けての取り組みも話し合われました。



今後は水源の森の運営をめぐって、できる限り広範囲の流域住民を集めた会議をもつていくことが確認されています。関心をお持ちの方、参加してみようという方はぜひご連絡下さい。会議の日程などお伝えします。

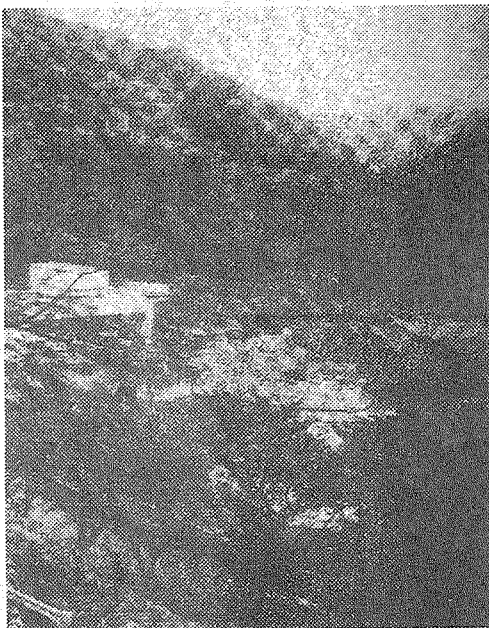


御嶽山と開田高原

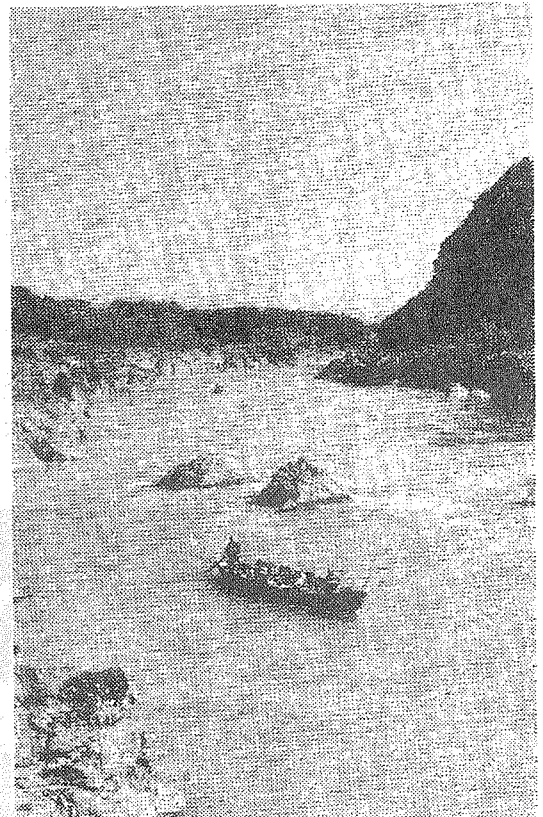


赤沢美林

木曾川 MAP

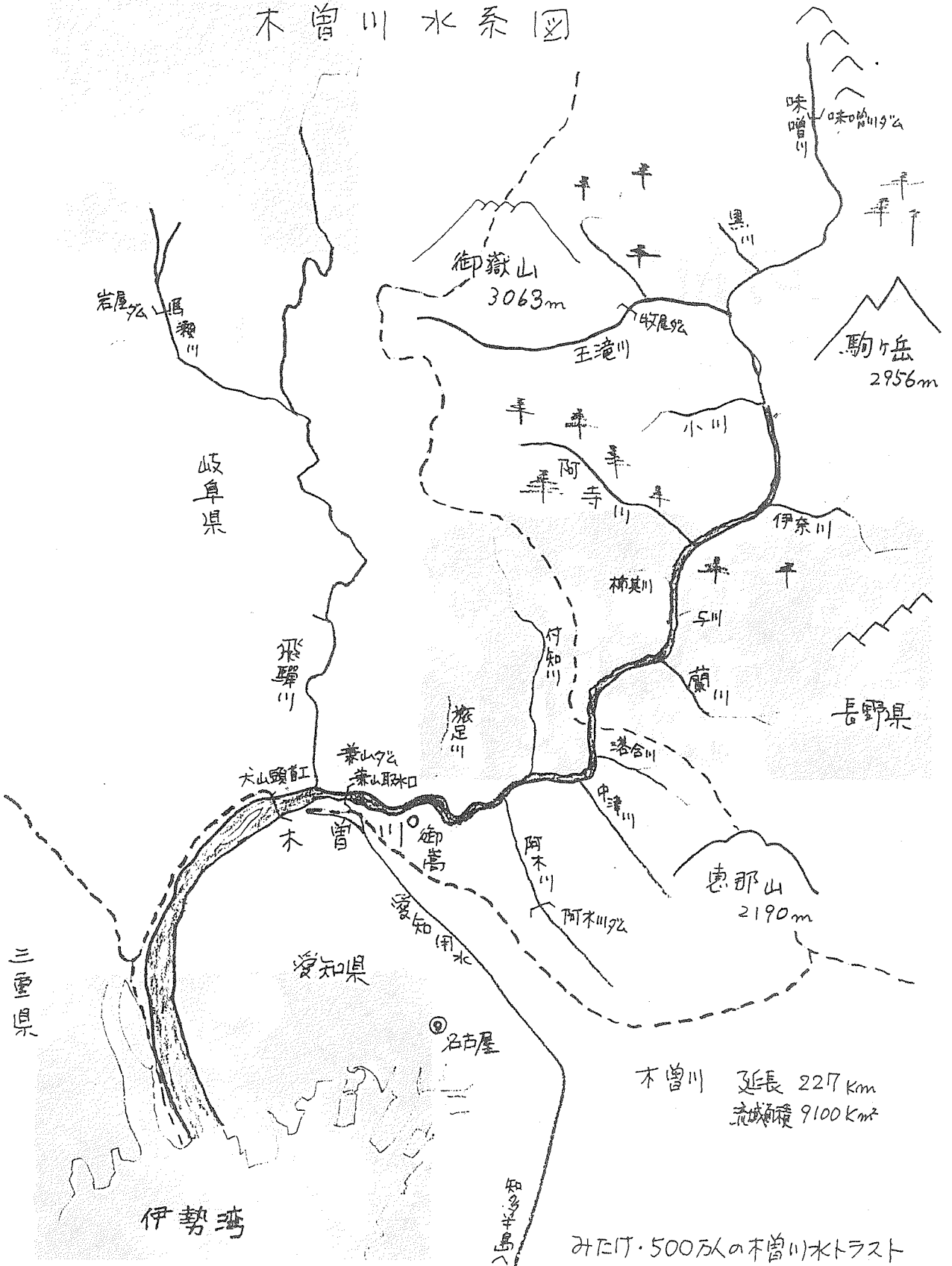


御嵩・産廃処分場が計画されている谷



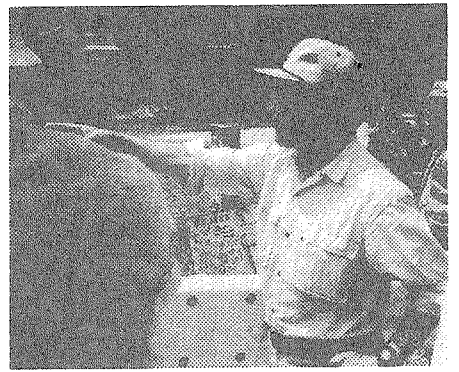
日本ライン下り

木曾川水系図



木曾川 延長 227 Km
流域積 9100 Km²

みたけ・500万人の木曾川水トラスト



五月八日、晴れ。四台の車で野尻駅に集まった一行は五人。御嵩と可児からの車を待つまでの間に入った

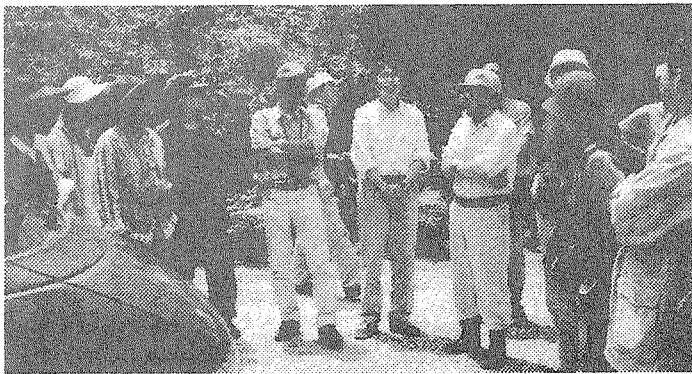
駅前の雑貨屋さん(?)はずいぶんおしゃれな店だったが、「ダム建設反対」のビラが貼ってあった。

「阿寺溪谷を愛する会」の金沢英明さんと娘さんの習子さんの優しい笑顔で迎えられ、簡単に行程の説明を受けた後、さっそく溪谷へ入る。金沢さんは軽トラックで先導、途中ところどころ車を停めて、阿寺の自然やダムの建設計画について説明をしてくれた。

流域圏シンポの時にも語られていたことだが、そもそも阿

訪問記

昨年11月の「木曾川流域圏シンポジウム」を通じて、私たちは木曾川の上流域で水を守るために奮闘している人々にめぐりあった。「ぜひ上流にも足を運んで下さい」との言葉に誘われて訪れた阿寺は新緑のまっ盛り。ダム建設に反対する金澤英明さん、木曾福島町長となった田中勝己さんらとの交流の一日をレポートします。



寺に計画されている揚水発電は、原発の余った電気(夜間稼働を止めるわけにいかない)ので、余ってしまう)を利用して夜間に水をくみ上げ、昼間の発電に使うというもの。発電所をはさんで上下に二つのダムが造られる。

貴重な生態系を壊すダム建設

もちろんこのダムが造られてしまえば、美しい阿寺溪谷の自然が壊され、木曾川の水が汚染されてしまうことは目に見えている。阿寺の周辺は植物の種類が多く、ずいぶん貴重なものもあるようだ。イヌワシやクマタカなど

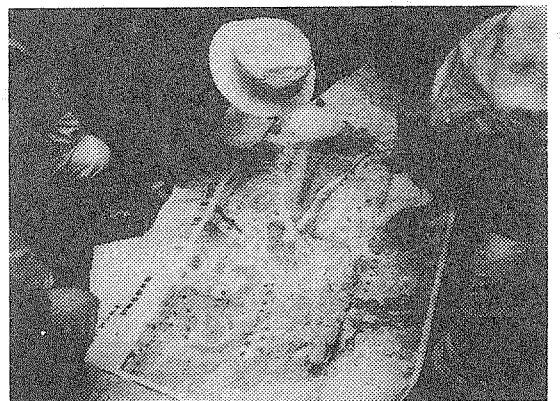
猛禽類も生息している。揚水発電所は、急峻な山を利用して奥地に作られるため、かろうじて残されてきた貴重な自然を破壊してしまうのである。

確かに、阿寺の水は美しい。初夏の日差しを受けて、エメラルドグリーンに輝いている。車を降りて木橋を渡ったりしながら、その美しさを満喫することができた。

犬山の平手さんはいろいろな植物の名前を知っていて、教えてくれる。御嵩の長谷川直美さんも図鑑を持ってきている。ところが私にはさっぱり見分けがつかないのが哀しい。

キャンプ場まで行って、とりあえず昼食にする。皆さん準備よく、ちゃんとおにぎりなど持ってきているのだった。

腹ごしらえをしたところで、普段は車が入れない林道の奥へと車を進める。事前に営林署に届けて許可をもらい、車止めの鍵を開けて入っ



たのである。

さらに十分ほど車を走らせるが、さすがにこのへんは道がすこい。車の底が何度も岩でこすれる。「おわっ」とか叫びながら、なんとか前の車の後をついていった。

奥まで来たところで、一同下車。金沢さんは今度は地面に地図を広げて説明してくれる。

話によれば、ダムの予定地からわずか一〇kmしか離れていないところに阿寺断層が通っていて、きわめて危険なのだという。巨大なダムに水を溜めることで、地震が誘発されることもあるそうだ。

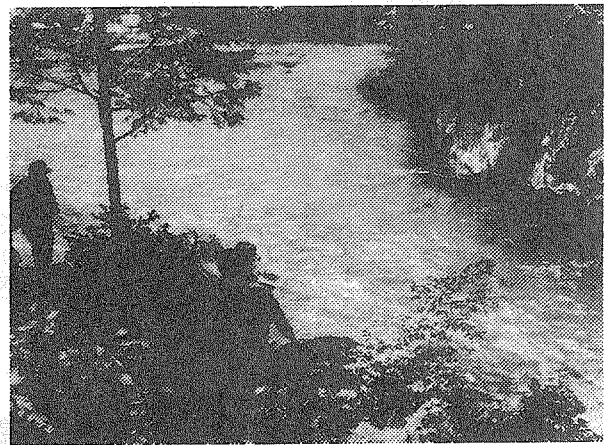
しかしこの計画について、地元大桑

村では昨年一二月、村長が受け入れを表明、中部電力へ同意書を提出してしまった。金沢さんらが提出したダム建設中止を求める請願も、村議会で不採択となった。

「村は金が欲しいだけで、それも土建屋とか一部が儲かるだけです。村議会でもまじめに考えようとした人には圧力が加かっていて、とても民主的といえた状態じゃない」と金沢さんは嘆く。

だが、暗い話ばかりではないようだ。この木曾中央水力発電所計画に対して、村民への説明不足、環境保全対策の保証がないなどを理由に、長野県の環境影響評価技術委員会が五回

阿寺溪谷



にわたり開催された。

信州大学の農学部だとか、植物の写真を撮っているグループなど、阿寺の自然に関心を持ってくれる人もいるし、豊科で三月に開かれた写真展にも、一週間で千人の人が来てくれた。村のミニコミ紙「大桑ジャーナル」にも、ダム建設に反対する小学生の手紙が掲載されていた……等々。

「ダムの問題だけではなくて、林業の問題や、村をどうしていくかということとを、広く訴えていきたいと思っているんです。この下にも、村が第三セクターでフォレスバ木曾というのを作っただけ、温泉がでなくなつて、一億一千万円の赤

字を出してる。この発電所で大桑村、王滝村あわせて二二億の補償金がもらえるといってるんだけど、それも税金が引かれますから、実際にはたいして残らない。下流と手をつないで、水源保護基金をつくったりする方が、自然のためにも村のためにもいいんです。神奈川の方だとか、矢作川ではそうしてる。行政レベルでも、住民レベルでも、もつと上流と下流が手をつないでいかなければいけない」

グリーンツリー ズムの実践、の りえの家

御嶽の温泉につかった後、おじやましたのは木曾福島の中勝巳さんのお宅。田中さんは去年シンポジウムに来てもらった時には町議だった、その後なんと木曾福島の町長になったのだ。

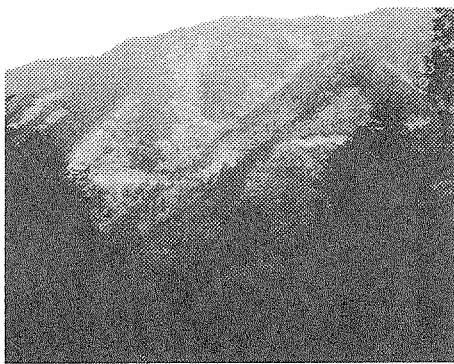


田中さんの家では農家を改造し、民宿にした。多くの人が泊れるようになってる。ヨーロッパのグリーンツリーの考えを導入して農村を活性化させようとしたのだ。飲食物持ち込み自由で、自分で調理もできる。この日は地元で買った食材を使い、水トラストのシェフ、木亦氏が腕を振った料理で、飲み会好きの一行は心ゆくまで杯を傾けた。

驚いたのは田中さんのおつれあい、憲江さんの話。憲江さんはこの「のりえの家」の記録を毎日新聞の毎日農業記録賞に出して、最優秀賞を取ったそう。だ。「おかげで最近私よりも忙しくて、自

民党からも講演の依頼が来るくらい」。

農村の状況を憂うばかりでなく、前向きに変えていこうとする明るさが印象的だった。それにしても、裏庭で取ってきてくれたわらびやふきは絶品でした。金沢さん、田中さん、ありがとうございます。



美しい停滞

柳川喜郎

この言葉は僕が言ったんじゃないくてね、御嵩に住んでいる陶芸家の梅原さんという人が言ったんです。町興しのシンポジウムがあつて、僕もパネラーの一人として参加してたんですが、その時にね、ぼろっと、梅原さんがそういうことを言ったんですよ。

御嵩にはゴルフ場がすでに五つあつて、二つは建設中。そんなことをふまえての発言だったんだけど。

開発開発と言ってきたけれど、この際立ち止まって、考えてみる必要があるんじゃないか。この町としていろいろな選択があるんだろうけれども、一つの選択としてね、「美しい停滞」という選択もあるんじゃないか、ということをお彼は言ったんです。

一方においてはそこに生きている人間がいるわけだし、食っていないといけないという議論は当然出てくる。ただ、思うに、今こういう具合で日本

の経済がおかしくなってきたるわけですが、バブルの時のように縁をひっぺがして開発開発と言った時代はもう終わつたんじゃないか。

例えばイギリスという国は、二百年かけて、七つの海を支配して大英帝国になつたんだけど、それから下り坂に入つて、全体では四百年かかつて。二百年かけて上つてきて、二百年かけて下り坂を下つてきた。そういう歴史があります。

僕の個人的な体験でいうと、一九七一年にイギリス軍のスエズ以東撤退ということがありましたね。その前、六九年に、マレーシアにあるイギリス軍の基地に取材に行つたんです。そこで英国軍将校と話をした。

僕は彼が大英帝国の落日というのを地団太踏んで悔しがるだろうと思つていたんですが、けろりとしてるんですね。時の流れだ、と言ってさばさば

してたんで、こっちの方があつけにとられちゃつた。

翻つて日本はどうかというところ、昭和三〇年代の後半から高度経済成長というこで上がつてきて、平成元年まで、たかだか三十年、わーっと上がつてきて、急成長で経済大国、経済大国と言つて。

それから十年たつてね。今、あれはなんだつたのかという。要するにバブルだつたわけですね。

別の言葉で言うところ、にわか成金ですよ。イギリスが二百年位かけてやってきたことを、こっちは三十年位でやってんだけど、今度は落ちるのも早い。

一九八五年だつたと思うんですけど、バブルの前ですね。まだ悠々たる頃です、経済は右肩上がりです。経済力はもちろん国としてのパワーも円もエンドレスで上がつていくという、誰しもがそう思つた時にね、今東大の

名誉教授になつている歴史学の木村尚三郎さんという方が、NHKの番組審議会で、一つの番組を見た後でお茶を飲んで雑談している時に、こうおっしゃつたんですよ。

私は歴史をやつてきたけど、いま日本はものすごい勢いで伸びてる。しかし、いろんな点で、これは経済力だけではないですけれども、経済力も含めた国としてのパワーが、もうピークにきてるんじゃないかと。

そういうことを確か八五年に言われた。えつ、つて言つて、僕は半信半疑だつたんですけれど。でも、それからの傾向を見ると、その時はいろんな意味でもうピークを過ぎてたんですね。さすがに今、十年以上たつてこうなつてみるとね、歴史家としての先見性というところでしようか。教育の問題とか、高齢化社会だとか、少子化だとか、さまざま問題を含めて木村さんは言つていたことが思い出される。

イギリスのことというところ、一時期はイギリス病だとか、僕たちもばかにしてましたね。落ち目だつていうことで。だけど今はそれを日本が言われています。

きょうオルブライト國務長官が来ますけど、ニューヨークタイムスなんかでは「日本への助言」というのを載せて、完全におちよつてくる。ニューヨークタイムスのホームグラウン

ドを大阪にすべきだとか、戦後最大の対米輸出は伊良部投手であるとか。東京とニューヨークのタクシードライバーをそっくり入れ替えるべきだとか。

日本は十年前はニューヨークの真ん中の大きなビルを買い占めたり、映画会社を買い占めちゃったりしてね、当時はアメリカ人はだいたいぶ頭に來てたでしょう。それが十年たつておちよくられているわけです。

いずれにしてもイギリスは四百年かけて上がつてきて下がつてきて、日本は英国病だとか笑つてたわけですけど、今度は「日本病」ですよ。

僕の言いたいのは、数年前から日本が下り坂だつてことはわかつてきたわけで、このままドタつといくと、破壊にしかないじゃないか。安楽死じゃないけれど、軟着陸でいくべきだということですよ。

上がつて下がつて、どうもこれは下がつてゐるな、と。それがわかつたからには、もうかつてのような右肩上がりにはありえないですから、できるだけ高原状態を保つのがいいですね。高原というか、つまり、停滞ですよ。僕はもう水平も保てないと思う。人口構成からみても、高齢化は急速に進みますし、どうしたつて国としてパワーが保てるわけがない。

精神論を言つたつて、ダメですよ。だとすれば、むしろガードを固めて、

守りに入つてね、いかに今の状況をなめるべく落とさないようにするか。僕はそれしかないと思うんだな。

お前の考え方は退嬰的だと言われ、るかもしれないけれど、僕も六十年生きて、まさに高度成長期のさなかに生活してきた人間としてね、本当に貧しいところから急に上がった生活を体験してきた実感として、そういうことを感じます。僕が子供の頃は、ゴミなんていつても本当にありませんでしたからね。捨てるものがなかった。

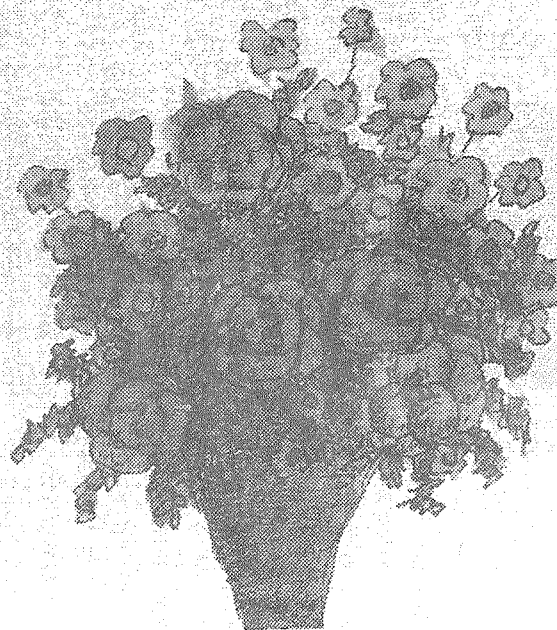
そのへんの認識からはじまらないと、環境問題は前へ進まないし、ゴミ問題なんかは特にそうだと思う。われわれは大量生産・大量消費・大量廃棄というのにとつぷりとつかりすぎてきた。そのツケが回つてきているんです。

持続可能な開発、サステイナブル・デベロップメントというのも本当はまあよしなんですよ。持続可能な発展なんていうのはありえない。開発にブレーキをかけない限り、特に環境はサステインすることはできません。

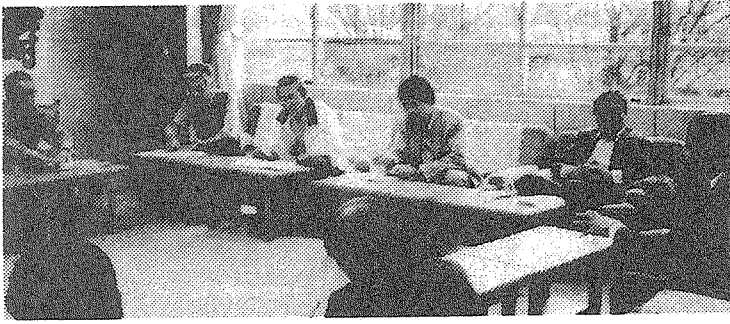
地球の定員は八〇億と言われてましたけど、もう間もなくでしょう。人口や資源の問題から見ても、とても持続可能な開発なんてありえない。

やはり「美しい停滞」というのが一つの選択として出てくるんじゃないか（やながわよしろう・御嵩町長／七月

四日談）



石田犬山市長と懇談 —木曾川サミットに積極姿勢



する石田氏が市長になってから、犬山では全国に先がけて環境四条例（「屋外燃焼行為（野焼き）」防止条例、「産業廃棄物保管の規制に関する条例」、「空き缶等ポイ捨て防止に関する条例」、「飼い主等のふん

木曾川の水を守るためには、流域自治体・市町村が住民レベルでも行政レベルでも連携をとりあつていくことが必要だ。私たちはそのための枠組みづくりとして、流域自治体の首長による木曾川サミットの実現を訴えてきた。

そのよびかけに、かなり積極的に応えてくれているのが今回（四月一四日）訪問した犬山市の石田芳弘市長。木曾川の日本ライ

害の防止に

関する条

例」を制定、この七月から施行されている。

この日は水トラスト事務局四人のほか、犬山の新郷瀬川の自然を守る運動をしている「スズサイコの会」など五人の地元の方が合流してくれた。市の側では市長のほか、二名の環境行政担当者が加わり、予定時間をこえ一時間余にわたって懇談を行った。石田氏は議員秘書、愛知県議を経て一九九五年



市長に就任。保守系の出身だが、斬新な発想で地方行政に新風を吹かせているニュータイプの首長の一人と言っている。

「地方分権の時代」を主張する氏は、「木曾川の飲料水を守る会」の挨拶でも、「犬山市民にとって、犬山城と木曾川は一对をなす宝物」「この美しさを侵すものに対しては『やめていただきたい』とキツパリ発言していくことが歴史の継承者としてのつとめ」と語り、御嵩の住民投票の意義にも触れている。

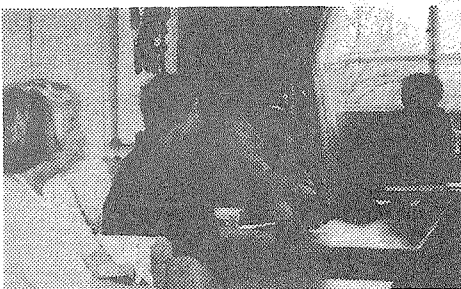
懇談の中では、まだまだ自治体の首長の中には補助金行政や公共投資のあり方に疑問を抱かない旧態依然とした人も多いが、地域の特色や自然、文化



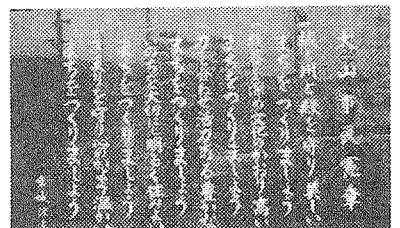
を活かしながら村興しをしていこうと考えている人もいます。犬山は取水口としてモノが言える立場でもあり、そういう人たちに働きかけながらとりあえずは各務原、可児、坂祝、美濃加茂と犬山あたりでなんらかの枠組みづくりをはかつていきたいとの考えが述べられた。

水トラストからは、昨年一二月の流域圏シンポジウムをふまえ、上流と下流の交流の重要性、特に下流域での水源基金の可能性などを尋ねた。犬山のグループからは、入鹿池の水質保全の問題を含め、鳥や動物が多く住んでいる状態は人間にとつても大切であり、連鎖の循環が断たれると見えないところに異常が出るなどが諄諄と話された。

愛知県議会へのアプローチなど市長から具体的なサジェスチョンもあり、ともに環境行政の前進のために何ができるかを考える場として有意義な懇談だったと思う。行政としての限界はあるかもしれないが、名古屋などにももう少し犬山の挑戦に見習ってほしいものだ。



新郷瀬川の保護については、8月28日付の中日新聞に県土木事務所が同川の調査で三種の絶滅危惧の植物を確認した旨が報道されていた。スズサイコの会の皆さんの活動の成果です。



「環境ホルモン」という言葉を知らない日本人はもうほとんどいないだろう。「外因性内分泌攪乱物質」というのが本名なのであるが、よするに人間の浅知恵で作り出された化学物質のうち人間を含めた動物に対して「偽ホルモン」として作用する物質のことである。これまで毒物といえば青酸カリのような急性毒や、煙草の煙などに含まれるベンツピレンだとか、原発から生み出されるプルトニウムなどのような発癌性物質については多くの研究が行われてきた。しかし、これまでちょっと便利だからということに使われまくってきたプラスチックや農薬などに含まれている成分が、まさか「偽ホルモン」として作用して、生殖のプロセスなどを狂わせ、まさに種の危機を招きつつあるなどということはだれも気が付かなかつたのである。それに気が付いて、世界へ向けて真っ先に警告を発した人、それがシーア・コルボーンである。

シーア・コルボーンは、WWF（世界自然保護基金）の顧問として活動している女性科学者である。彼女を中心とした研究チームは、2000 報もの研究論文を集めて読み較べた。卵が孵化しなくなったハクトウワシ、オスが巣を守らなくなったためにメスが二羽で共同して巣と卵を守るようになったセグロカモメ、オスのペニスが萎縮して受精しなくなったワニなど、自然界には多くの不気味な異変が起きていた。研究チームは複雑なパズルを解くようにして、このさまざまな異変の共通の原因が「偽ホルモン」であるという衝撃的な答にたどりついたのである。彼女たちの研究成果は「Our Stolen Future」という本になって、ゴア副大統領の序文付きで出版された。日本でも訳書「奪われし未来」（翔泳社）が昨年秋に出版された。今や世界中の科学者や政府が大慌てで「環境ホルモン」の研究を開始している。

WWFというのはNGOである。日本の貧乏なNGOと較べてはいけませんが、それでも研究費の潤沢なマサチューセッツ工科大学やNIH（国立衛生研究所）の比ではない。そうした象牙の塔の研究者たちが思いつかなかつた衝撃的な事実を突き止めたのが、NGOの「小母ちゃん研究者」であつたというのは、単

●レイチェル・カーソンとシーア・コルボーン

ふたりの女性から人類へ 今世紀最大の警告

糸土広（いとつちひろむ）

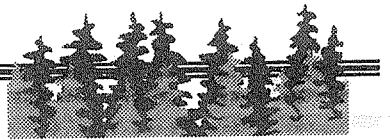
なる偶然ではないだろう。潤沢な研究費をもらってそれに見合った研究成果を確実にしなくてはならない研究者たちは、冒険が出来ない。だから常識を覆すような研究が出来ないし、また着想すら出来ないのである。

これと同じことが 30 年前にも起きている。レイチェル・カーソンの「Silent Spring（訳書：沈黙の春）」の出版である。当時「魔法の薬」として世界中にばらまかれていた塩素系殺虫剤 DDT が、実は「害虫」だけでなく、その天敵である虫たちをも殺してしまっている。その結果、生態系がズタズタに破壊され、逆に「害虫」の大発生を引き起こしたりしているという事実を明らかにしたのである。DDT は第二次世界大戦の前に発明された。それが戦後になって食料増産の有力な武器として、あるいは不潔を撲滅する妙薬として、世界中で使われるようになった。そのため、合成法を発見したスイスの化学者はノーベル賞を受賞している。その DDT が毒薬なのだ警告した

のだから、それを生産して巨大な利益をあげていた化学産業はだまっただけではなかった。レイチェル・カーソンはウソつき女であるという誹謗中傷の大合唱を始めたのである。しかし、その後の歴史は彼女の警告が正しかったことを証明した。今では DDT の製造は全世界的に禁止されているのである。しかし、ばらまかれてしまった DDT はなかなか分解せず、今でも野生動物たちや私たちの体脂肪の中に残留している。

レイチェル・カーソンも大学の研究者ではなかった。カリフォルニアの漁業局の調査員として働いていた女性科学者である。「沈黙の春」を出した頃の年齢はやはり 50 代である。そういえば、今世紀最大の科学者といわれるアインシュタインも、相対性理論を発見したのはスイスの特許局の職員の時代であつた。お金と権威が宿るところからは、独創的な研究が生まれにくいのである。そして、合成化学物質による生命の危機、種の危機に気が付き、いち早く警鐘を鳴らした研究者が二人とも女性であつたということも感慨深いものがある。ぜひ、みなさんにもご一読されることをおすすめしたい。





水トラスの活動の紹介

本文中でもお伝えしましたが、「みたけ・五〇〇万人の木曾川水トラス」では、木曾川流域の水源保全のシンボルとして御嵩町内に約一五〇〇坪の山林を取得し、この場所を「水源の森・みたけ」として流域住民の手で保全・運用していくことを提案しています。

ご承知の通り、御嵩町の巨大産廃処分場計画については昨年六月の住民投票で反対票が約八割を占めたにもかかわらず、いまだ正式に中止されてはいません。この処分場予定地を監視し、また処分場建設の中止を求める人たちの心よりどころとなるような場があれば……。そんな想いで、事務局のメンバーが何度も現地足を運び、地権者のご理解を

得てやつのことで土地を確保しました。とはいうものの、これまでに集まったトラストの出資金だけではいまだ購入額に及びません。また、今後散策道の設置をはじめ流域住民が訪れることのできる場にしていくための整備の資金も必要です。

そうしたわけで、これまでも水トラストへの協力を頂いてきた皆さんには申し訳ないのですが、再度トラストへの出資をお願いしたいと思っています。出資者の方へは今後ともこのニュースの送付などを通じ、活動報告を行っていきます。また当然、皆さんご自身による利用も可能です。ぜひ、流域住民の手で「水源の森・みた

け」を誕生させていけるよう、ご協力下さい。

< 出資金・会費の納入先 >

郵便振替 00800-9-64810

みたけ・500万人の木曾川水トラスト宛

出資金は一口2000円。何口でも結構です。

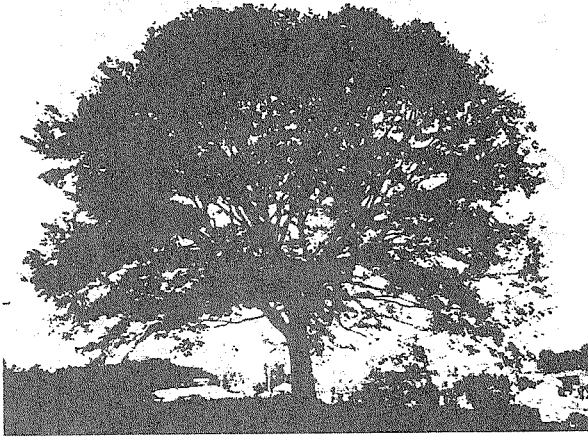
会費は年間2000円。ご面倒ですが、会費、

出資金の別を明記してください。

会費のなごり活動の紹介

【水源の森】の購入・維持運営にあてていくための出資金とは別に、水トラストの活動そのものへの参加・協力として会員になっていただける方も募集しています。

会員には総会などへの出席を通じ、運動のあり方につき意見表明する機会があります。また、事務局会議への参加をはじめ、水源の森の整備作業、本ニュースの編集などやらなければならぬ仕事がたくさんあります。お手伝いいただける方、興味や関心をお持ちの方はご連絡下さい。運動経験のない方も歓迎します。すべての生きものの生命の水を守りましょう。



水源の森・みたけへ 行こう！10月31日(土)

AM10時・名鉄御嵩駅前集合

みんなで森を拓こう みんなで少し森を拓こう
みんなで手を組みながら広げよう
当日は若干の作業と御嵩町民、流域住民の交流会など予定しています。昼食持参。作業のできる服装で来て下さい。

MITAKE
Wishing Well
Trust

水トラストニュース創刊号

1998年9月5日発行

みたけ・500万人の木曾川水トラスト

〒454-0034 名古屋市熱田区伝馬町 2

-28-14 Tel&fax 052-682-5204

遅くなりましたが、ニュース創刊号をお送りします。水トラストの活動を通じて、いろいろなところで運動するいろいろな人たちに出会ってきました。そうした声を含ませてかこしていくための媒体に、このニュースがなっていければと思います。投稿も大歓迎。記事にできることがあれば取柄にも伺いますので、ぜひ教えてください。(森下)